

泰成株式会社

Pick Up!

平成30年度

事業計画名

超低床用支持脚製造機械導入による自動化と多能工化による現場力の向上

概要

機械化が遅れている超低床用支持脚の生産工程を自動化し、増産と品質向上を実現しリフォーム需要を取り込み市場開拓を進める。

新工場に技術者が集結することでOJTやQC活動を活発に行い多能工化を図る。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 一般型

成果

新たな支持脚組立機の導入により、手作業で対応してきた超低床用支持脚の製造が、日産約3,000個から10,000個に増加し、生産性が大きく向上した。

また、手作業工程がなくなったため、均質な製品製造と歩留まりの向上が可能となった。



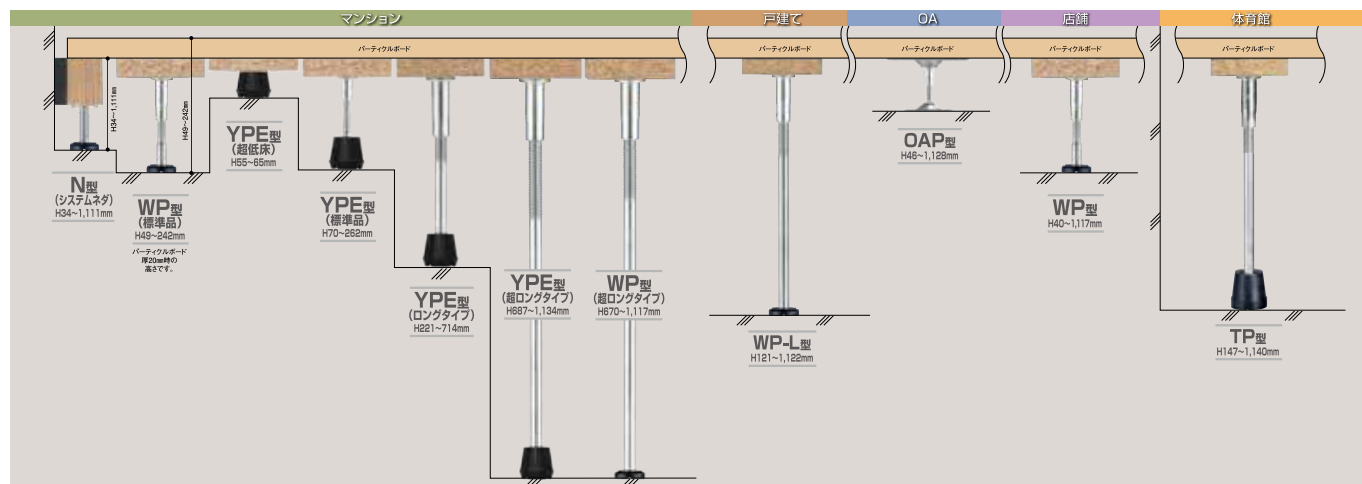
施工事例（左：東京モーターショー、右：マンション）



下平新工場



2020.4.1より駒ヶ根市民体育館の愛称が「大成スポーツフロア」になりました



製品ラインナップ

好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

泰成株式会社（駒ヶ根市）

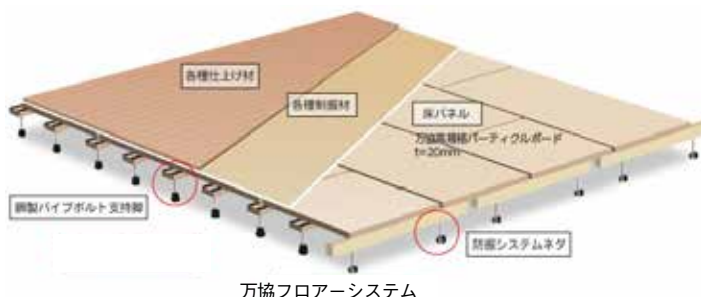
国内シェア40～50%!研究・開発から製造・販売まで一貫して行う乾式二重床のパイオニア。

国内シェア40～50%

泰成は1962(昭和37)年、カーステレオ・スピーカーシステムなど電機部品の加工で創業。68年に日本初の防振型根太受け金具「フローリング・スタンパー」を製造し、集合住宅用建築金物の研究・開発・製造にシフトしました。以来、メーカーとして各種建築物の床下地・二重床の製品開発・工法研究から製造・販売まで一貫して行っています。

同社は、乾式二重床のパイオニアとして高い知名度を誇ります。それはコンクリート(スラブ)に直接床を張らず、防振ゴムのついた支持脚で床パネルを支えるシステム。遮音・衝撃吸収・断熱性能にすぐれ、床下配管・配線が容易、施工・リフォームの省力化・合理化が図れるなどのメリットを持っています。独自の「万協フロー」は現在、国内シェア40～50%。首相官邸、六本木ヒルズ、東京オリンピック関連施設をはじめ、各種大型マンションなど全国のさまざまな建築物に採用されています。

同社の歩みは、床工法の研究開発の歴史でした。72年に脚付パネル方式「ベースエポック工法」を開発。83年には共通支持脚方式「万協フローシステム工法」を確立し、製品開発・工法研究・製造・販売を一貫して行う体制を整えました。99(平成11)年には支持脚の支柱に業界唯一、自社製造の金属パイプボルトを使用した、初のスラブ固定式乾式二重床「万協フロー・スラブブロックシステム」の全国販売をスタートしました。



万協フローシステム

超低床型製品自動製造ラインを構築

近年、建築物のリフォーム・リニューアル市場が大きく成長しています。そこで天井高確保の必要性からニーズが高まっているのが、マンショ

ン・戸建て住宅のリフォームで使用する超低床型製品。製造工程に手作業が多いため生産数が少なく、工程の機械化による増産体制の構築が喫緊の課題となっていました。

そこで同社は平成30年度補正ものづくり補助金を活用。3カ所に分散していた生産拠点を集約し新工場を建設したことに合わせ、超低床型製品の自動製造ラインを構築しました。新ラインの導入により、約3,000個/日から10,000個/日に増加するなど生産性が大きく向上。手作業工程がなくなったため、均質な製品づくりと歩留まり向上も可能になりました。

また、新ラインの導入により新工場に集約した技術者のOJTやQC活動を強化。技術の伝承・共有を行い、技術者の多能工化を図ることで、人材不足が進む中でも工場全体の生産性向上を実現すべく取り組んでいます。

同社では今後、顧客ニーズに対応する「現場力」の向上に注力。中央自動車道やリニア中央新幹線を活かした新たな仕組みづくりも行い、さらに大きな市場の開拓を目指しています。



超低床型製品



超低床型製品自動製造ライン



泰成株式会社

代表 代表取締役 清水 雅弘
設立 1969(昭和44)年10月
資本金 3,000万円
従業員数 35名
本社 駒ヶ根市飯坂2-8-34



TEL.0265-83-1138 FAX.0265-83-9663
事業内容 万協フローシステム、その他床システムの開発・製造・工法研究開発・販売・施工
<https://www.bankyo.co.jp>